

2019 年度利島村教育委員会 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」に対する意見

帝京大学文学部心理学科 助教
新谷 和代

利島村教育委員会が策定した全34項目の教育目標に対する自己評価は、A 評価が 28項目、B 評価が6項目、C 評価が 0 項目という結果でした。一昨年、昨年度と C 評価がなく、また A 評価の数が昨年度から2つ増え、B 評価が2つ減ったことは、平成30年度の教育委員会の施策・事業は、着実に成果が積み上げられていると判断されます。

以下、主な項目の自己評価およびその評価根拠について、簡単にコメントを述べさせていただきます。

1. 教育委員会の活動

昨年度に引き続きB評価が3つ A 評価1つとなり、更なる充実が求められます。

・(3)教育委員会と村長との連携については、利島村伝統文化芸能行事(ふるさと利島に思いを寄せる日)の定着に向けて、村長と教育委員会が連携を深めていることが感じられます。また、子どもたちが大きな関心を持っているオリンピック・パラリンピック競技観戦についても協議をされたことは、大変意義があると思いました。

・(4)の教育委員の学校支援については、教育委員が学校視察を行い、学校長と学校教育、学校施設について意見交換を行ったとのこと。教育委員は、地域住民の学校支援や、学校理解の窓口ともいえる役割ですので、更なる連携を期待しています。

2. 教育委員会が管理・執行する事務

・(1)教育行政の運営に関する基本方針を定めることについては、関連する法律の一部改正に基づき、『利島村教育大綱』を策定されたとのこと。引き続き、制度面からの子どもたちへの支援をよろしくお願いいたします。

・(5)離島高校生就学支援事業の事務に関することについては、利島出身の高校生全員が、支援金を利用し、また支援金も増額されていることは素晴らしいと思いました。また昨年度は、利島村出身の高校生たちと利島村の小中学生との交流が図られればよいと記しましたが、ちょうど昨年、文化推進事業として来島された東京都交響楽団の演奏を聴いた中学 3 年生が、今年度高校に進学して部活でビオラを始め、ビオラ奏者の方と交流が続いているという話があり、これは、内地で先輩が高校生活を充実させていることを利島の子どもたちが知るよい機会になると思いました。これからも、高校生の生活の様子が島民に知らされると、とてもよいと思いました。

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

・(3)社会性をはぐくむ教育の推進については、補助金交付により、小中学生の島外学習、中学生の修学旅行などの島外活動の活性化が図られており、大変よいと思いました。また学校だよ

りでは、それらの行事で子どもたちが生き生きと活動した様子が報告されており、学校だよりを読む島民の方々が、学校教育についてより深く理解し、子どもたちへの様々な更なる支援につながっていると思われました

・(4) 児童・生徒の他地区との交流については、中学生の海外ホームステイ事業の実施と、海外の子どもたちとの交流が報告されていました。こちらについては、役場全体の取り組みとなったとあります。このような支援は、先生方の負担を減らすことにもなりますが、島民の方々がより主体的に学校教育を支援するひとつの場ともなっていることが考えられ、大変よいことだと思われました。

4. 学校教育

昨年に引き続き全ての項目で高い A 評価となり、利島小中学校の教育内容が充実しており、またレベルも高いことがわかりました。

・(1)人権尊重教育の推進については、日常生活における他人との関わり方、特に挨拶の重要性について取り組まれており、大変よいと思われました。また、11月の学校だよりの中で、中学校の副校長先生がラグビーワールドカップの「one for all, all for one」のスローガンについて、その背景に「仲間によって活かされた自分」という考えがあることを説明をされており、華やかなスポーツの裏にあるスポーツマンシップの大切さについて触れられたことは、意義深いと思われました。

・(3) 自尊・他尊感情を育て、豊かな心をはぐくむ道德教育については、特に柔剣道の「行事や諸活動を通して異学年と意見交換や支援・協力すること(時にはトラブルの経験)から、他尊感情を理解し互いを認め合うことの大切さを学んだ」とあり、大変よい活動ができていたと思われました。また地域運動会で、オリンピック・パラリンピック活動の一環として、元車椅子陸上競技選手が来島され、参加者が競技用の車椅子をこぐという体験をする報告がありましたが、このように実際に体験してみることで、他者の気持ちになって考えることを学ぶのではないかと思ひ、よい機会になったと思われました。

・(4)健康の保持・体力の増進を図る教育活動については、利島には、地域住民が運営する様々な体育協会活動団体があり、子どもたちや島民の健康や体力増進に寄与していることは、大変結構なことと思われました。中でも数十年続く利島山彦会は、柔剣道を通しての少年少女の健全育成を目指して活動を続けているとのことですが、今回は、神新・伊豆地区交流少年柔道大会で、小学校高学年が見事団体優勝を遂げたことは、日ごろの地域の方々の熱心な指導と子どもたちの粘り強い練習が、素晴らしい成果を生んだのだと思われました。そしてまた、四島少年柔剣道大会でも白熱した試合が展開され、保護者の方々が熱心に応援していたという報告がありましたが、このように様々な方々から見守られていることは、子どもたちの成長を更に高めることにつながっていると思われました。

・(7)キャリア教育の推進については、12月に3日間の島内職場体験が行われ、島民の方々の協力により、無事終了することができたという報告があり、大変よいことでした。文部科学省のホームページによれば、職場体験は生徒本人にとって、「体験活動そのものの充実」「現実味がある」「体験先の方との人間関係の深まり」等が得られるとあります。これらは達成できたと思ひます

が、「長期実施による心と態度の変化」があったかとなると、やはり 3 日間では難しいかと思えます。基準である 5 日間の実施ができればよいと思えますが、可能であれば後 2 日は、別日に島外で実施し、より幅広い職種の体験もできればよいと思いました。

・(8)故郷教育の推進については、利島には、古代から近年まで様々な文化遺跡が残されており、教育委員会を中心に整備が進められ、教育の場面で活用されていると聞いています。今年 6 月の教育長室通信では、第二次世界大戦中に塹壕を掘りに来た兵士の乗る船が、荒天のため沈み、その慰霊のために仲間が来島し、椿に慰霊の思いを刻んだことが記されていましたが、それを学校の先生が知って、教材として写真に撮られたとのこと。このような貴重な教材は、7 月の島外学習での、昭和館での戦争の悲惨さを学ぶ教育にもつながったと思いました。

・(9)家庭・地域に開かれた学校については、利島では、秋の地域運動会を始めとして、地域住民が子どもたちと一緒に参加する行事がいくつも開催されており、地域住民と学校が協働する学校運営がなされていると思いました。また、学校長が、週に数回ホームページで「校長室だより」を発信し、行事本番での子どもたちの様子はもちろん、地域の方々による準備や後片付けなどの裏方のご協力をいただいている様子を、画像とメッセージで掲載されていることは、着実に地域連携につながっていると思いました。またそのような学校の連携の方針は、利島の自然に関心を持っている住民が、会議の場に山で見つけた蚕を持ってきて、それを副校長先生が子どもたちに見せるために学校に持ち帰ったという教育長室通信のエピソードからも感じられました。

5. 社会教育

・(2)家庭への教育支援推進事業については、就学支援、奨学金貸付、離島高校生就学支援事業などが行われており、家庭の負担が軽減されていると思いました。高校進学時には故郷利島から離れなければならないという厳しさと、校長先生が四島体育大会の後に子どもたちに語られたという「君たちの一生懸命な姿に心打たれた。君たちは素直な心を持っている。その気持ちを忘れずに。」という子どもたちの気質のよさがうまく両立し、利島の子どもたちが 10 代後半になっても伸びやかに成長していけるよう、金銭面だけでなく、何らかの精神的な支援や取り組みが必要ではないかと思いました。その一つとして、教育委員会の施策のテーマの一つ、「子どもたちに故郷を・・・」がキーワードのように思われます。自分たちの育ってきた利島を誇りと共に他者に語るができるように、利島の文化的行事や利島の産業が、島外からも注目され、利島住民もそれを積極的にアピールできるよう活動することが求められると思いました。

・(3)文化財保護の充実については、利島村伝統文化芸能事業の一環として、利島村伝統文化芸能実行委員会が主催する「ふるさと利島に思いを寄せる日」が、昨年 3 月に盛況のうちに開催されたことが報告されました。伝承文化は、日常生活の中で行われることで、その価値が再発見されると言います。実際、餅つきを行う中で、子どもたちがお年寄りに教わりながら、餅の形を整える「餅もみ」をする様子が紹介されていましたが、このようにして、子どもたちがお年寄りの知恵に敬意を表し、またお年寄りを始め地域の人々も子どもたちと交流し、子どもたちに教えることで、地域の中での自分の新しい役割に気付くきっかけになることが考えられます。既に第 2 回の「ふるさと利島に思いを寄せる日」に向けて、準備始まっているようですが、更に充実した取り

組みがなされることを期待します。

6. 放課後児童クラブ(学童)について

・(1)放課後児童クラブの運営については、「学童だより」より、子どもたちの育成に先生方が尽力されていることが感じられます。11月に行われた敬老会でのお年寄りとの交流では、子どもたちがお年寄りにお祝いの言葉を述べた後、けん玉を披露し、お年寄りに楽しんでもらえたとのことでした。他にもサツマイモ掘りの活動が報告されていましたが、このように積極的に施設から出て活動することが、子どもたちの更なる成長につながると考えられます。来年度も、活動の継続をお願いします。

7. その他

・(1)施設・設備については、大石山遺跡のスロープ工事や、郷土資料館の入り口付近の改修によって、より利用しやすくなったことが素晴らしいと思いました。展示のパネルの劣化が進んでいるとのことですので、次年度も引き続き修理をお願いいたします。